



第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会
(CVIT2023)が

2023 年 8 月 4 日(金)～8 月 6 日(日)に

福岡 PayPay ドーム ヒルトン福岡シーホーク
にて開催予定です。

当院からは 診療支援部 野口 幸 部長が

学術発表をされますので、ご紹介します。



CVIT2023 大会テーマ

SDGs for Intervention

Illustration by Tepei Kasahara

この作品は「障がい福祉サービス事業所・PICFA」の協力のもと制作しました。

会 長

横井 宏佳 (福岡山王病院/福岡国際医療福祉大学)

副会長

挽地 裕 (佐賀県医療センター好生館)

柴田 剛徳 (宮崎市郡医師会病院)

辻田 賢一 (熊本大学大学院循環器内科学)

坂本 知浩 (済生会熊本病院)

高度石灰の SFA CTO に対し Bi-directional approach による wire 通過が困難で順行性 Outback catheter でリエントリーできた 1 例

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 循環器内科²⁾ 透析センター³⁾
野口 幸¹⁾ 奥 拓也¹⁾ 市谷和也¹⁾ 辻本大輔²⁾ 名方 剛²⁾ 福井寛人²⁾ 齊藤精久²⁾
山岡みゆき³⁾ 吉岡伸夫³⁾

【症例】

70 歳代の透析患者。主訴は左間欠性跛行。左 ABI 0.49、SPP(Dorsal/Plantar) 23/19mmHg と低下を認め、循環器内科受診し、LEAD と診断され下肢動脈造影を行った。順行性に 6Fr Parent sheath 50cm を挿入し造影すると、SFA の入口部から中間部まで高度石灰化病変を認めた。CTO 入口部を 3.0 mm の balloon で拡張し sheath を SFA 入口部まで挿入した。Wire を Cruise から CXI を back up にし VASSLLO G40 を進めたが wire が subintimal space に迷入したので、Astatto 0.018 に交換したが、distal cap が通過できず膝窩動脈からの Retrograde approach に変更した。Wire は Gladius で試みるも通過せず、Bi-directional approach では困難と判断し、順行性に CXI をサポート下に J 型 stiff wire 0.35 を使用し knuckle wire technic で balloon を押し進め、Outback catheter を挿入し Chevalier Universal で通過した。IVUS では一部 wire が false lumen を通過しているが balloon 6.0mm と NSE PTA 6.0mm で拡張し、LUTONIX 6.0mm×150mm を使用し良好な血流を確認して終了とした。

【結語】

高度石灰化を伴う長区間の SFA-CTO 病変に対して順行性または、Bi-directional approach でワイヤー通過が困難な病変に Outback が有効な症例を経験した。